

審査結果の講評

過疎地域自立活性化
優良事例表彰委員会
委員長

宮口 侘
みやぐち としみち



みなさん、こんにちは。過疎地域自立活性化優良事例の表彰委員会委員長を仰せつかっております早稲田大学の宮口でございます。毎年のようにこのシンポジウムに参加させていただいておりますけれども、全国から集まっておられる旧知の方々に会うのが大変しみな日でございます。今日も檀上から何人か旧知の顔を発見しまして嬉しく存じているところでございます。

早いもので、過疎地域の活性化の見本になる素晴らしい取組に対する表彰も、今年で23回目を数えました。本年度も委員会での討議、あるいは現地視察を踏まえて、全国各県から推薦されました多数の団体の中から総務大臣賞4団体、過疎連盟会長賞4団体をそれぞれ選定させていただきました。簡単に紹介をさせていただきます。

総務大臣賞に輝かれました群馬県神流町の「神流マウンテンラン&ウォーク実行委員会」は、平成21年から山道や林道を走るマラソン、トレイルランという世界で盛んに行われておりますスポーツの大会を開催されてきました。これにはなんと町民の過半数の方々が山道の整備、あるいは民泊等で大きな役割を果たされています。参加者からは毎年感謝の言葉があり、そして会が盛り上がっているということでございます。標高1,000mの小さな集落の休憩所でお年寄りとの交流があるというのも、非常にいい話だと伺いました。

続いて石川県珠洲市「株式会社よろし」というところでございますが、ここは観光土産店があった地区と、大浜大豆というおいしい大豆の栽培に成功された地区の共同出資で、直売所が生まれました。いわば売ることが得意な地区と作ることが得意な地区の合体、これこそまさに協働というのかなと受け止めております。黒字経営はもちろん、指定管理者として利益の三割を市に納付されている、配当もされているという、驚くべき会社だと思います。過疎地域のビジネスの素晴らしい見本だと思います。

それから明日、分科会が行われますご当地、愛知県設楽町田峯地区の「谷高座」という歌舞伎の座がございます。地元の田峰観音に300年以上歌舞伎の奉納が続けられています。地元の小学生を全員座員として、たしか昭和50年代から後継者の育成に努められ、小学校に残っていた「青い目の人形」をアメリカに里帰りさせようと、そして小学生の歌舞伎をそこで見てもらおうと、日本の文化を世界にアピールする大変な活躍をしておられます。アメリカに、既に8回行かれまして、地区を挙げて経費を負担しているのみならず、私がもうひとつ感心したのは、財産区の資金で宅地造成をされていること。子供を育てるような人にIターンしてもらおうと考えて始められ、これで実際に小学生が増えているわけでございます。今わずか14人の小学校を、頑張っで地区で育てておられます。地区と小学校が一体となった活性化ということで、私は稀有な事例だと思いました。

それから「島根県邑南町」には、島根県一の売り上げの産直市「みずほ」というのがありますけれども、町はさらに「A級グルメでの町おこし」というのを目指され、ここでしか味わえない食と体験を創ろう、と。さらに町がネットショップを運営し、イタリアンレストランを開業されるなど新しいセンスの取組に加えて、「日本一の子育て村」を目指して定住希望者への支援を続けられる。町主導で非常に複合的な実りある過疎対策を行っておられるということでございます。

過疎連盟会長賞としましては、まず「北海道鹿追町」です。北海道は大型の農業、専業農家の多いところでございます。そういう純農村地帯で「バイオマスタウン構想」を策定され、環境保全センターで家畜の糞尿や生ごみをバイオマスや堆肥として農家に還元、異臭の軽減にも成功されています。最近北海道の農地が売りに出ても買う意欲が落ちていると言われていたのですが、これは若い世代の農業回帰にも貢献しておられると受け止めました。

続いて宮城県丸森町の「ひっぽUIターンネット」は、町の南部の筆甫地区というところで子供が生まれなくなったことへの危機感から立ち上がって設立され、今NPOとして活動されています。新しい住民の受け入れの相談、事後のケア、体験ツアーの活動などIターン者の増加に大きく貢献されています。ぜひ、震災を乗り越えて頑張っていたいただきたいなと思います。

それから、やはりご当地、「愛知県豊根村」ですけれ

ども、これは本当に険しい地形の奥地山村であります。そこで既に30年前に都市の小学生の山村生活体験宿泊というのをスタートさせ、そして学生の地域づくりインターン事業を長く受け入れてこられました。その学生のOBと今も交流が続いております。明日の分科会にも、そのOBが駆けつけてパネリストとなることになっております。そういう交流事業の先進地域で最近、愛知県の3つの大学との連携によって、さらに農業体験、高齢者の健康チェック、小規模集落対策というような新



しい展開が生み出されております。

最後になりました。広島県安芸高田市の「生桑振興会」。奥地の集落で、ガソリンスタンドや農協のお店が撤退をするということで困るわけですが、有志が「ふれあい市」という会社を作られ、その存続を実現されました。地区の多額の自己資金を投入されて、老朽化したガソリンスタンドを新しく作り変えられました。それからお店の経営にも大きな工夫が見られ、店の一角にサロンのような場所があるのも素晴らしいと思います。

なお、大臣賞は評価が確立しているもの、会長賞は少々発展過程にあるものと理解されておりますけれども、両者に価値の差があるわけではございません。本年度の表彰は、市町村が3団体、会社やNPOを含む地区の組織が4団体、イベントの実行委員会が1団体という顔ぶれになりましたが、いずれも住民の多様な力を組み合わせた協働ということで良い形を実現しておられることに、心から敬意を表させていただきたいと思っております。受賞団体の皆様におめでとうございましたと申しあげて、講評を終わらせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

過疎地域自立活性化優良事例表彰

総務大臣賞



神流マウンテンラン&ウォーク実行委員会
委員長 宮前 鉄十郎



株式会社のろし
代表取締役 新 弘之



田峰観音奉納歌舞伎 谷高座
前座長 七原 明郎



邑南町
町長 石橋 良治

全国過疎地域自立促進連盟会長賞



鹿追町
副町長 安部 克裕



特定非営利活動法人 ひっぽUターンネット
理事長 庄司 一郎



豊根村
村長 伊藤 実



生桑振興会
会長 藤井 敏法